



# 平和学習だより



夏休み8月4日の平和学習では、戦時下の子ども達にかかる動画を2つ見ました。クラスメートや他の学年の人の感想を読んでみましょう。同じ動画を見ても、感じたこと、考えたことは人によりさまざまです。改めて平和について考え、学びを深める機会にしてください。

## 「ぼくたちは兵器を作った～大阪砲兵工廠～」の動画を見ての感想

【3年生】

自分と同じ年代の人たちが戦争の兵器を作っていたことに驚いた。

印象に残ったことは、空襲の直前に「浅ちゃん」と呼んでいた人(友だち)と最後にかわした言葉。悲しい別れが生々しく伝わってきた。

- 自分たちとそんなに年がかわらないのに兵器を作らされていると考えると、自分は絶対いやだ。
- 1万人ぐらいの子どもが働いていたのがビックリした。子どもが兵器を作らないといけないくらい大変な状態だったんだと思った。
- 社会の歴史の授業で習ったことなどがでてきて、こんなことがあったのかと詳しく知ることができた。
- 戦争を実際に体験したことのある人のお話をだったのでとてもしっくりきた。
- 身近にある大阪城公園にも兵器を作るような工場があったことを知りびっくりした。この工場で空襲による被害を受け多くの人が亡くなり、その時生き残った人の友達も亡くなってしまったことがわかり、大阪城公園の見方が少し変わった。
- (過酷な労働によって)熱が出ても、学校の名誉のため(家へ)帰れないのは本当につらいと思った。

「向こう(アメリカ)もひどいことをしているのだから、こちら(日本)も同じことをして当然だ。それを上回ることが戦争に勝つということである。」という言葉が当時の戦争における雰囲気を象徴しているようで、印象に深く感じられた。

- 空襲が来るのが分かっているのに、逃げられないという状態がとてもかわいそうに思える。
- もう一日早く降伏すれば400人近くの命が救われていたのが、なんとも言えない気持ちになった。

戦争で敵兵と戦うのも嫌だが、兵器を作るのも嫌です。その兵器で人の命が奪われると考えると更に嫌になります。学ぶはずの学生たちが働かされるのは大変。そして、命をうばわれた人々、その親族もとても辛いでしょう。だから、戦争はいけない。

- 証言者が十代のころに言われた「なにが落ちようと逃げることはできない」(という言葉)が印象的で、すごくこわく感じた。
- 工場に爆弾が落とされることを知っていたのに、普通に働かされて、その日だけ工場に来ないようにしていたら絶対助けられる命もあったのに、国はなぜその日も働かせたのか、意味が分からなかった。

【2年生】

- 今の大阪城公園に大阪砲兵工廠があることを知らなかったので、驚いた。
- 風船爆弾という兵器があったということを初めて知った。
- 米軍は(爆撃の)予告のビラをまいていたのに、逃げることをせずに兵器を作っていたということを初めて知った。逃げることができていたら400人近くの命は失われなかっただろうかなと思った。
- 大人だけじゃなく子どもまで戦争に出されることになるのは大変なことであって、つらい経験だと思った。

私は「お国のため」と一生懸命になっている意味がわかりませんでした。しかし、そのことに誇りをもって取り組んでいたんだと知った。「勝てる」と思って戦争に貢献する行動をとっていたことを当時の人の話を聞いて初めて知った。

- 熱を出しても敵前逃亡で帰らせてくれないということが印象に残っている。
- とても理不尽だと思った。
- 人の命よりも工場の心配をしていて恐ろしいと思った。
- 当時の日本は今と比べるとおかしな点が多く、そのおかしな点を信じ続けた結果が色々な悲劇を起こしてしまったのかなと思った。

【1年生】

戦争はおこしてはいけません。しかし、なぜこういうことが起きるんでしょうか?

- 自分たちと同じくらいの歳のひとたちが工場に行って兵器を作っていることはすごいこと。しかも家族の人たちと離れ離れになっているのに毎日がんばって仕事をしている昔の人たちはすごい。
- 6万人の中に10代の行員が1万人もいて女学生なども製造にたずさわっていることと熱をだして体調をくずしているのにそこを出れなかつたことが印象に残っている。
- 日本軍は国のことしか考えておらず、そのせいで多くの人々が苦しい思いをしながら生活しないといけないことがわかった。

大阪城公園にとても大きい軍需工場があったこと、当時の戦争に10代も工場で働いていたことを初めて知った。

- 約400人の命が亡くなったのはかわいそうだし、怖いなと思った。
- アメリカが(終戦の)条約をしようとしているのに、日本は遅らせようとしていると知って、空襲をしたと知った。
- 今、日本で戦争が始またら築港中学の人たち全員戦争でないといけないし、自分の親も戦争でないといけなくなるということを考えた。
- 自分が戦争の頃に生きていたらいやや。自分たちが地元の病院に帰られなくなったらひどいと思った。人の命が失ったら他人のことだと思うのはいけないと思った。

終戦の前日に(空襲の予告の)ビラを拾ったのに、国はいつも通り作業をさせて、本当は助かつたかもしれないのに、約400人の命が亡くなるのはダメだなと思う。

熱風にあたりながらも日本が戦争に負けないために兵器を苦ししながら作っていて、やけどもひどくて當時どれだけしんどかったのかがわかった。